



令和7年 新年ごあいさつ

県土整備部長 古市 秀徳

令和7年の年頭に当たり、謹んで新年のあいさつを申し上げますとともに、本県の県土整備行政の推進につきまして、日頃より皆様から格別の御理解と御支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、県では、急激に変化する時代に対応した新しい青森県づくりを進めているところであり、その実現には、地域の産業を支える社会資本整備と災害に強い「安全・安心な県土づくり」の推進が必要不可欠です。

青森・八戸間の道路ネットワークを構成する第二みちのく有料道路では、今年3月末までにETC整備が完了する予定です。これにより、料金支払いがスムーズとなり、料金所付近における朝夕の渋滞緩和などの効果が見込まれ、利用者の更なる利便性向上につながるとともに、地域間の交流・物流の一層の拡大が期待されます。

また、近年は、本県においても自然災害が激甚化・頻発化しており、甚大な被害が発生しています。県では、被災した公共土木施設の復旧に着実に取り組むほか、あらゆる関係者が協働して流域全体で治水対策を行う「流域治水」をはじめとした、防災・減災の取組を推進していきます。

県が行う各種取組において、地域の守り手である地元建設業者の協力は欠かせませんが、建設業界では担い手不足の問題が顕在化しています。この問題に対し、県では、産学

官が連携して将来の土木系人材を育成することを目的に、就職を予定している大学生等に加えて、小中学生の若年層にも楽しく「インフラ」に触れて関心を持っていただけるよう、バーチャルサイト「A o m o r i インフラアカデミー」をプレ開校したところです。

そして、このような取組は、県民の皆様に伝わり、認識していただくことで、最大限の効果が発揮されるものです。県では、地元芸能事務所と連携し、SNS等を活用した積極的な情報発信に努めてまいります。

引き続き、命と暮らしが守られる社会を目指して安全で利便性の高いインフラ整備を進めていきますので、本年もよろしくお願い申し上げます。